

平成 28 年度
(公財) 北海道サッカー協会 F2 級審判員リフレッシュ研修会②報告書

報告者： 網走地区審判員 澤田 篤樹

大会名：第 28 回全道ユース (U-18) フットサル選手権大会
兼第 4 回全日本ユース(U-18)フットサル大会北海道予選
日時：平成 29 年 1 月 21 日 (土) ～22 日 (日)
場所： 湿原の風アリーナ釧路
アセッサー： 佐々木琢至・菊地芳男・坪坂智光
参加者(審判員)：武田広平・太田智宏・細川貴史・中川次郎・勝瀬雅彦・合掌悠太・太田真
波佐谷見英・荒川浩幸・磯田大治・高橋宏幸・村山尚哉・椿直人・

※21 日 (土) 第 2 試合 10:15～ アセッサー 坪坂智光
* 苫小牧工業高等学校 対 滝川西高等学校 (2:1) (2:0) 4:1 主審担当

【 目 標 】

- ・ファウル判定基準の統一。
- ・ボールのある所以外の選手動きも見るようにする。

【 反 省 】

- ・前半のファウルで指し違いをしてしまった。もっと落ち着いて判断したい。

【 指摘事項 】

- ・ファウルの指し違いの時、選手同士が困惑していたので、しっかりとプレーを止め守備側のチームの守備が整うまで待ちましょう。
- ・前半終了時のファウルは、すぐにブザーが鳴りましたが、時間を戻す指示がないまま進めていました。必ず、時間を何秒戻すかの指示を出してからプレーを再開してください。
- ・キックインの時、キックを行う選手の他に選手がフィールド外にいた場面が何回かあった。しっかりと注意をし、繰り返すようなら警告が必要です。
- ・ゴールキーパーからのクリアランスで、ピボにボールが入る時はもっと近い位置で監視をすること。

※第 5 試合 12:15～ アセッサー 菊地芳男
* 北広島西高等学校 対 岩見沢東高等学校 (1:2) (0:0) 1:2 主審担当

【 目 標 】

- ・展開を予測したポジショニング。
- ・前試合の指摘事項の修正。

【 反 省 】

- ・高校生の展開とプレーのスピードが速く後半、予測したポジショニングが出来なくなった。

【 指摘事項 】

- ・キーパーがプレーした時にカウントをしていない時がありました。必ずカウントしましょう。
- ・もっと展開を予測したポジショニングを身につけること。
- ・守備側の選手のファールの見落としがありました。ボールにプレーしていない選手のブロックはファールになります。
- ・審判同士のアイコンタクトをもっととりましょう。

※第8試合 14:15～

アセッサー 坪佐智光

*名寄高等学校 対 函館中部高等学校 (0:1) (1:1) 1:2

第2審判担当

【 目 標 】

- ・前試合の指摘事項の修正。

【 反 省 】

- ・主審がファールをとった際に笛を吹けない場面が2回あった。

【 指摘事項 】

- ・選手交代で交代選手が交代する選手が出る前にピッチに入った際の警告があったが、警告を出す時の進行を正しく行いましょう。又、その後主審とのポジションチェンジが必要でした。

<手順>ピッチに入った選手を呼びピッチから出す→ピッチを出た選手をピッチに入れる
→警告当該選手に警告提示→正しい交代を再び行う。

- ・視野確保のため、縦の動きの他に横の動きも取り入れること。
- ・終了1分位から、残りのタイムを確認すること。

※第11試合 16:15～

アセッサー 菊地芳男

*札幌大谷高等学校 対 サンク FC くりやま U-18 (5:2) (3:0) 8:2

第2審判担当

【 目 標 】

- ・視野確保を意識したポジショニングと動き。
- ・前試合の指摘事項の修正。

【 反 省 】

- ・スピードのあるハードな試合で、後半体力と集中力が持続できなかった。
- ・攻守の競り合いの際、手を使用する選手に対し注意できなかった。

【 指摘事項 】

- ・ゴールクリアランスの際、ペナルティーエリアラインの監視が必要です。
- ・キックイン時、タッチラインにもっと近づいてください。
- ・手の使用については、引っ張ることは反則にならないが、引っ張ることで相手を押さえてる場合は反則となるので、見極めが難しいです。一度軽い注意を促し、早い段階で抑制する。

※第 14 試合 18:15～

アセッサー 菊地芳男

*伊達緑丘高等学校 対 北見北斗高等学校 (0:1) (1:3) 1:4

第 3 審判担当

【 目 標 】

- ・第 3 審判の仕事の確認をし、他審判員の補助をする。

【 反 省 】

- ・第 3 審判を経験したことが少なく、困惑した。
- ・ベンチに役員が 3 名までのところ 4 名いた。後半に 1 名退席してもらったが、ハーフタイムの時まで気付かなかった。

【 指摘事項 】

- ・ブッキングのタイミングが悪く、交代の監視がしっかりと出来てません。交代の監視優先でブッキングのタイミングを考えましょう。
- ・もっと動いてベンチの監視をする。又、ゴールキーパーが攻撃に参加した時のゴールの監視も忘れないで行うこと。

※22日(日) 決勝ラウンド 第2試合 10:15～

アセッサー 佐々木琢至

*Divertido 旭川 Hermanos 対 白樺学園高等学校 (0:1) (1:0) 1:1 PK2:3 第2審担当

【 目 標 】

- ・落ち着いたジャッジング。
- ・前日の指摘事項の修正。

【 反 省 】

- ・旭川のチームの選手が色違いのスパッツをはいていたが、用具のチェックで確認できなかった。
(膝にスパッツと同色のサポーターをしていた為、気付かなかった。)

【 指摘事項 】

- ・タイムアウト時の主審・第2審の位置は本部前です。(ピッチの中にいた。)
- ・タッチラインから離れる事が多いので、ボールが出そうな時はタッチライン上に立って見極めてください。
- ・PK戦の時の第3審判とTKの位置
第3審判→ハーフラインより後ろにいる選手達より更に後ろで監視する。
TK → 本部前に出て立って、ピッチ全体とベンチの監視をする。

※22日(日) 決勝ラウンド 準決勝 12:45～

アセッサー 坪坂智光

*白樺学園高等学校 対 札幌大谷高等学校 (2:1) (1:0) 3:1 タイムキーパー担当

【 目 標 】

- ・第3審判と協力し、タイムアウト及び退場者が出た時の対応をスムーズに行う。

【 反 省 】

- ・かなり大勢の観客がいて、かなり緊張しましたが問題なくTKの仕事を行えた。

【 指摘事項 】

- ・タイムキーパーとしての指摘は特になし。

<以下審判員の指摘事項>

- ・前半12分ハーフの試合が35分もかかっていた。原因は審判員のマネジメントです。5mの距離を離すのに、選手に言われてから離すので時間がかかっていた。事前に声をかけて距離をとらせるなどの対策をしてください。
- ・選手の発言であった「どこ、見てんのよ!」は、一発で異議として警告を出しましょう。
- ・両チームとも、ピボとピクソの競り合いの中でお互いファールの認識はあると思うので、早い段階でファールをとってください。

【全体を通しての感想】

今回の研修会には2級審判員13名が参加でした。強化審判員が2名でその他は、全道各地区から進んで参加している審判員で、そのボランティア精神に感銘を受け、改めて大会運営には多くの人の協力があってこそ成り立っているのだと再確認させられました。中には、55歳の現役審判員もいて、若者に引きをとらない走りを見せてました。

カテゴリ的には、少年団の指導者と各地区のフットサル連盟理事が多かったと思います。

網走地区からも、もっと多くの2級審判員を輩出し、毎年数名が研修会に参加することが網走地区のフットサルのレベル向上と普及・発展に必要な課題と感じました。

朝8時から夜の8時までの長い時間の拘束と、1人当たり5~6試合の審判を行い大変でしたが、1試合ごとのアセッサーとの反省会で、自分の今足りないところのご指摘が多々あり大変勉強になりました。

又、普段地元ではあまり経験のないプレーイングタイムでの試合や決勝トーナメントではPK戦もあり戸惑いも多く大変でしたが、各審判の役割やルールの再確認ができ大変良い経験をさせてもらいました。この研修会で得たものを生かし、今後もカテゴリに問わず審判活動を続けて行きたいと思っております。最後に、今回の研修会に参加させて頂きありがとうございました。